

# 平成26年度全国学力・学習状況調査結果の概要

平成26年10月

伊那市教育委員会

## 1 調査の目的（文部科学省）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 平成26年度調査実施日 4月22日（火）

3 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

## 4 調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A）
- ・主として「活用」に関する問題（B）

◇質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## 5 教科に関する調査結果の概要と改善のポイント

◇国語 小中平均して基礎的な力はあるが、小の漢字の読み書きや故事成語の使い方など知識として学習する内容に関しての定着に課題が見られる。ドリル学習が作業に終わっていないか見直しをするとともに、知識が単なる知識にならないよう、日常的に言語活動に親しめるように辞書や新聞資料を積極的に活用するなど体験的な学習を多くしていく。また、小中ともに読むこと、書くことに若干の課題が見られた。文学作品や説明文を始めエッセイや古典文学など、幅広く読書に親しむ活動や読書ノートをつけるなど要旨や感想を書き留める活動を計画的に設定していく。さらに、書くことに関しては、日記や生活記録を充実させたり、行事の感想を作文に書いたり、授業のまとめを継続的に書いたりするなど、普段から書くことに親しめるようにし、同じ内容に対して様々な表現方法があることを機会あるごとに示しながら、自分ならどのような文章表現をするかといった学習を通して、文章における表現力の向上に努める。

◇算数・数学 小中を通して、計算技能の向上及び基礎基本の理解の定着が見られる。しかし、問題文から立式することも含め、どうしてそのような式になるのかといった式の読み取りに課題がある。課題や文章問題を絵や図に描き表して、自分なりに問題の構造を整理・発表する学習を仕組んでいく必要がある。さらに、定着・活用の時間を確保してその時間に使われた見方・考え方の活用に関して広がりをもたせ、日常事象を算数・数学的に処理する面白さや利便性について計画的に指導を行い、日常事象を算数・数学的な目で見える力をつけていく。

中学の資料の活用領域では十分な定着が見られた。資料の活用能力は情報量の多い現在の社会において必要不可欠な力であるので、さらに定着が進むよう丁寧な指導を行う。

## 6 質問紙調査結果から特徴的なこと

- ◇伊那市の小中学生は、決まった時間に寝起きするなどの習慣がおおむね身につけている。
- ◇テレビ、ビデオ、DVDの視聴時間は1時間以上3時間以内の割合が多い。
- ◇家庭学習は2時間以内の割合が多い。

※各校においては、資料分析を行い、授業改善に生かすと共に、児童生徒一人一人の自己理解、個別指導に生かすよう取り組む。